



NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会

MANO a MANO

～「mano a mano」とはスペイン語で「手から手へ」という意味です～

会員総数 806 人
医師 157 人
コメディカル 648 人
【管理栄養士紹介登録数 44人】
 平成22年1月20日現在

《目次》

「しなやかな関わり」矢田眞理子先生……………Page 1
 研究会の実施報告……………Page 2
 研究会の実施報告……………Page 3
 研究会のお知らせ……………Page 3、4

しなやかな関わり

当会評議員 やさか調剤薬局 矢田 眞理子

本会誌新年号に掲載された近藤甲斐夫先生の“念頭の所感”を拝読した。思えば公立昭和病院時代に近藤先生に出会い、先生を通して糖尿病を勉強し始めた。先生が着任された頃は、現在では考えにくいことだが、インスリン自己注射は保険適用外。ましてや当時チーム医療などという言葉すら市民権を得ていなかった。そのような背景の中、早くも先生は我われコメディカルスタッフに療養指導の担い手として、白羽の矢を立てられた。私の糖尿病療養指導の原点は、先生の今も変わらない糖尿病診療への熱い思いにあると改めて思う。先生のますますのご活躍を願ってやまない。

さて話は変わるが昨年の暮近く、卒業後ドイツに渡り、今もなお現地で薬剤師として活躍している友人の里帰り帰国に旧友達が集まった。互いの近況報告の中で、近頃HbA1cが糖尿病域に近づいてきたと嘆く友人が何人かいた。小柄で細身であったドイツ在住の友人は少々ふっくらとし、既にOHAを服用しているという。近年ドイツにおいても2型糖尿病の有病率は上昇しているようだ。食文化の異なる異国において、食事の量と内容に留意しながら、軽快に自転車を乗り回し積極的に運動に励んでいるという。自然環境に恵まれたケルン郊外を颯爽と風をきり走行する友人を想像し、羨ましくも微笑ましくも思えた。

糖尿病や予備軍の旧友達は、クオリティをないがしろにせずにしなやかに暮らしている様子であった。これはもちろん糖尿病に関する知識を有しているからであると思うが、人はそれぞれの価値観を大事にし、その人らしく人生を満喫できれば幸いであると思う。たとえ世代が違えども又糖尿病患者であろうとも、人生は楽しめたほうが良いと思う。そして糖尿病療養指導士としての日常の自分をふと振り返る。患者も一生活者であることを忘れ、患者の生活の質を高めることよりも、つついデータに捕われ向きあってしまう自分を省みる。薬局での短い面談の中で、糖尿病の正しい情報を誤解の無いように伝えてきたつもりである。しかし更に私の療養指導の原点を思い起こしながら、患者さんの実生活の質のアップに配慮したしなやかな関わりができるように、心がけていきたいと強く思ったところである。



第20回多摩糖尿病チーム医療研究会薬剤師分科会

平成21年10月28日(水)「緑風荘併設病院グリーンボイス」にて開催されました。

平成21年10月28日水曜日緑風荘病院グリーンボイスにて第20回多摩糖尿病チーム医療研究会薬剤師分科会が開催されました。今回は、「簡易血糖測定器」をテーマに公立昭和病院検査科の櫻井勉先生より講演とディスカッションが行われました。

講演では、血糖測定器の扱い方 動脈血、静脈血、末梢血、採った場所による違いなど簡易血糖測定器のしくみや、測定器による違い、患者指導などのお話がありました。第二部では、グループに分かれて実際に簡易測定器を使ったデモを行い簡便さ、測定場所による痛さや値の違いなどを体験しました。ディスカッションでは、同じく櫻井勉先生より日頃疑問に思っていることに対してQ&Aでわかりやすく答えて頂きました。今回はより患者の気持ちに立って指導できるような貴重な体験をさせていただいた研究会でした。



第14回糖尿病療養担当者のためのセミナー

平成21年11月28日(土)「多摩永山情報教育センター」において開催されました。

昨年11月に、『第14回 糖尿病療養担当者のためのセミナー』を開催し、193名の方々にご参加頂きました。当セミナーは、午前が講演会、午後はパートレクチャー(講義)及び、分科会(グループワーク)形式となっています。

午前の部では、特別講演として南昌江内科クリニックの南昌江先生より『1型糖尿病の治療とケア～理論と現実～』、東京医科大学八王子医療センターの植木 彬夫先生より『糖尿病と認知症』の演題で御講演頂きました。また研究発表では、今年の学会等で報告した、当セミナーの研究内容の発表が行われました。二人の先生方からの御講演及び研究発表では数



多くの質問があり、非常に活気に満ちた講演会となりました。

午後の部は、パートレクチャーと分科会へ、参加者が5つのグループに分かれる形式で行われました。パートレクチャーは、専門の先生方による講義形式で、糖尿病治療に関する幅広い情報の提供がなされました。また分科会は、全員参加型のグループワークとなっており、様々な経験や情報の共有がなされ、熱いディスカッションが繰り広げられました。最後に、参加して頂いた皆様には、当セミナーを通じて得られた『学び』を糖尿病治療に携わる方々への情報発信拠点として、今後の診療の一助となる事を切に願っております。



第23回東糖協多摩ブロック糖尿病教室

平成21年12月12日（土）「八王寺市北野市民センターホール」において開催されました。

平成21年12月12日（土）午後2時より八王子市の北野市民センターホールにおきまして、「第23回東糖協多摩ブロック糖尿病教室」が開催されました。会の冒頭に日本糖尿病協会 東京都支部 会長 菅原正弘先生より開会の挨拶がございました。続いて特別講演『糖尿病からの失明を回避するために』では、多摩センタークリニックみらい 院長 宮川高一先生の座長のもと、杏林大学医学部眼科学 教授／杏林アイセンター 平形明人先生より目の仕組みから糖尿病の合併症の一つである糖尿病網膜症に関するお話など幅広く解説していただきました。講演後には会場からの質問にもお答えいただきました。第2部の『ぜひ聞きたい！あんな疑問？こんな疑問？コーナー』では宮川先生の司会のもと、東京医科大学八王子医療センター 糖尿病・内分泌・代謝内科 科長 大野敦先生、多摩センタークリニックみらい 看護師 岡崎扶美恵先生、東京医科大学八王子医療センター 管理栄養士 和田茜先生の3名をコメンテーターにお招きし、会場からの糖尿病に関する疑問・質問にお答えいただきました。





研究会他のお知らせ

◆ 直接事業

◆ 間接事業

第24回東糖協多摩ブロック糖尿病教室・第16回西東京糖尿病患者連合会特別講演会

テーマ：「糖尿病を勉強しませんか？」

(お申し込みは不要です)

開催日：平成22年2月13日(土) 14:00～16:30

場所：武蔵野公会堂(吉祥寺駅南口下車 徒歩2分)

会費：無料 ※詳しくは同封のチラシをご覧ください。

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

◆ 第1回 糖尿病と認知症研究会 (※お申し込みが必要です)

～この度新しく間接事業として加わりました。～

テーマ：認知症合併糖尿病患者さんの問題点はどこにあるのだろうか？

開催日：平成22年2月20日(土) 16:00～18:10

場所：国分寺Lホール(国分寺駅ビル8階)

参加費：500円(当日は軽食をご用意しています。)

申込み：同封の申込用紙にてFAXでお申し込み下さい。

FAX番号：042-526-4698

締切日：平成22年2月15日(月)

定員：200名(定員になり次第締め切らせていただきます。)

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：0.5単位

◆ 第7回 西東京インスリン治療研究会 (※お申し込みが必要です)

テーマ：Basal supported Oral Therapy(BOT)

開催日：平成22年2月20日(土) 16:00～19:30

場所：ザ・クレストホテル立川「桜の間」(JR立川駅南口下車徒歩7分)

参加費：医師1000円 医師以外無料

申込み：Eメールにてお申し込みください。

宛先：Sakiko.tsutsumi@sanofi-aventis.com 担当：堤 咲子

締切日：平成22年2月10日(水)

定員：100名(定員になり次第締め切らせていただきます。)

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：1単位



NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 事務局

〒185-0012 国分寺市本町3-10-22 リエント'ラサ' 402

TEL: 042(322)7468 FAX: 042(322)7478

http://www.nishitokyo-dm.net Email:w_tokyo_dm_net@ybb.ne.jp

